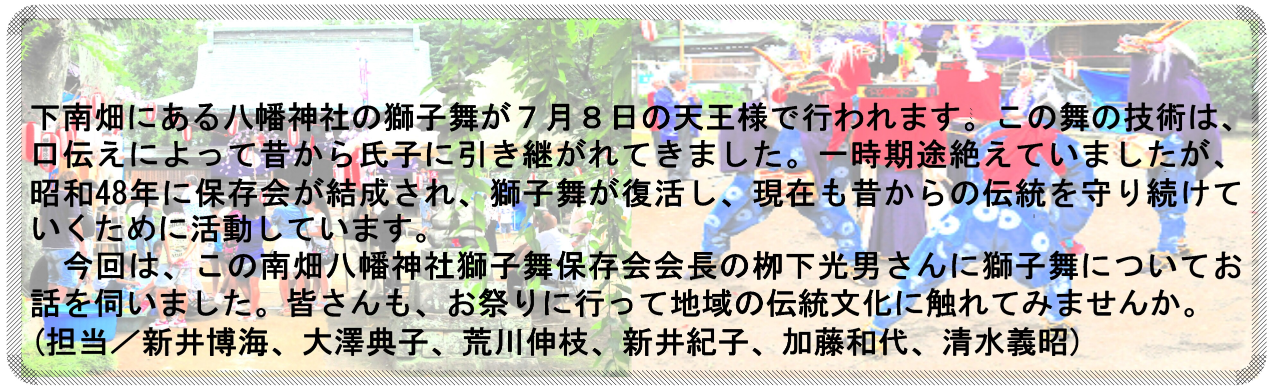


下南畑にある八幡神社の獅子舞が７月８日の天王様で行われます。この舞の技術は、口伝えによって昔から氏子に引き継がれてきました。一時期途絶えていましたが、昭和48年に保存会が結成され、獅子舞が復活し、現在も昔からの伝統を守り続けていくために活動しています。

今回は、この南畑八幡神社獅子舞保存会会長の柳下光男さんに獅子舞についてお話を伺いました。皆さんも、お祭りに行って地域の伝統文化に触れてみませんか。

（担当／新井博海、大澤典子、荒川伸枝、新井紀子、加藤和代、清水義昭）

南畑の文化財 八幡神社獅子舞

南畑八幡神社の歴史

八幡（はちまん）神社の創立は明らかではありませんが、応永7年（1400年）に鎌倉鶴岡八幡宮に社領として寄進されたことが文書によっても知られています。

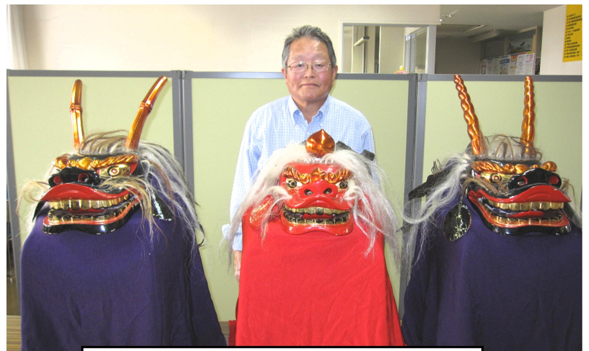
また、保元から平治（1150年）のころの金子小太郎高範の流れをくむ、難波田弾正憲重がこの地に在城した時に当社を厚く崇敬したとも伝えられています。こうした歴史から神社が古くからあったことを窺い知ることができます。

獅子舞の歴史

八幡神社の獅子舞の起源や伝承については定かではありませんが、弘化元年（1844年）生まれの方が成人したころには盛大に行われていたことが伝えられています。

また、獅子舞は神社社内のほかに氏子の家々の庭でも舞われ、悪霊退散、五穀豊穣、天下泰平を願ったと伝えられています。

この獅子舞は昭和58年に市の民俗文化財に指定されています。



獅子舞保存会会長の柳下光男さん。右から男獅子、女獅子、中獅子

獅子舞の役割

獅子頭は、利根川水域に多く分布発達してきた竜神伝説の竜形式。頭髪は鶴羽と毛で飾られています。役割はすべて男性でまかなわれています。

- 男獅子…父であり、頭には幾重にもねじれた鹿の角（ねじり角）をつけています。鹿頭信仰の流れを受けているとされています。
- 女獅子…母であり、頭には宝珠という飾りがついています。
- 中獅子…息子であり、頭にはまっすぐに伸びた鹿の角（ねじれがない）をつけています。
- 山の神…猿田彦ともいい、獅子たちを庭（「土俵」ともいう。直径６mくらいの舞を行う場所。６本の竹を注連縄（しめなわ）で囲み作られるもの。）へと誘導します。
- ササラ子…小学5、6年生の男の子二人が簓（ささら）（竹の先を割って束ねたもの。長さ50cm）を鳴らし、頭には花笠（長さ90cm程度の割竹に赤、黄、紫などの色紙の造花をつけたもの）をかぶります。
- 笛方（横笛）…竹でできており、指穴は七つ。
- 歌方…舞節などの獅子舞歌（５ページ一段目参照）を歌います。
- 高万燈（高張り）…提灯持ちともいわれます。二立てで一組です。

八幡神社 獅子舞歌（抜粋）

舞節

まわれや車　まわれや車
つれてまわれや水車よな
つれてまわれや水車よな

獅子の子は　京で生まれて伊勢育ち
腰にさしたは伊勢の御祓い
腰にさしたは伊勢の御祓い

おもいもよらぬ　朝霧がおりて
ここで女獅子がかくされたよな
ここで女獅子がかくされたよな

十三から　つれたひめ子にさそわれて
我が身ながらも尋ねだそうよな
我が身ながらも尋ねだそうよな

うれしやな　風が霞を吹き上げて
ここで女獅子を尋ねもうけたよ
ここで女獅子を尋ねもうけたよ

奥山で　音の高きはくつわ虫
なりを静めて歌の節きけよな

奥庭に咲こう　おしだれ柳
一枝手折りて腰を休めろよな

立歌

浜千子が　坪の間せぎに手をかけて
花も御千子も見えもわからぬ
花も御千子も見えもわからぬ

立つ鷺が　あとを走れば水すまぬ
お庭あらさでたてやともだち
お庭あらさでたてやともだち

七つ拍子　八つ拍子よな
九つこぶしは霧が細かよ
九つこぶしは霧が細かよ

天神前の　梅きり雀
羽先をそろいてきりをかいさいな
羽先をそろいてきりをかいさいな

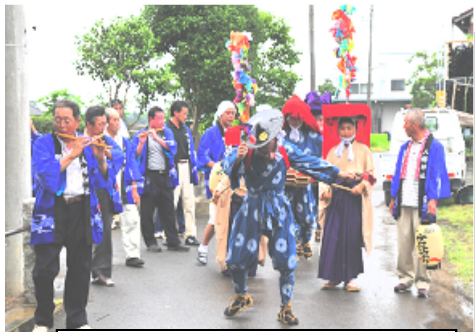
奥山の兎は　何見て跳ねる
十五夜お月を見て跳ねる
十五夜お月を見て跳ねる

ササラを見たくば　板戸へ出しゃれ
板戸の上での三拍子よな
板戸の上での三拍子よな

いつのめざさに　露もいらぬ
おいとまもうしていざかいさいな
おいとまもうしていざかいさいな

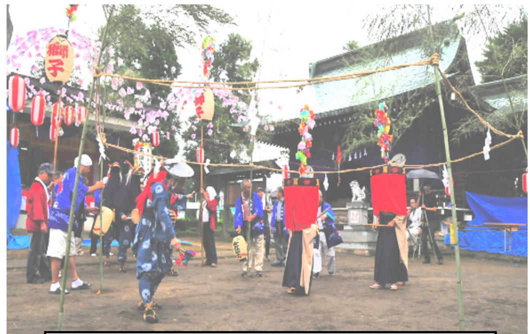
獅子舞の流れ

社務所から鳥居まで獅子は太鼓をつき、ササラ子はササラをすりながら進む。行列の順は、山の神の左右前方に高万燈、山の神の後ろ両脇にササラ子2人、その後ろに女獅子、中獅子、男獅子、笛方とならび、笛方の合図で進みはじめる。



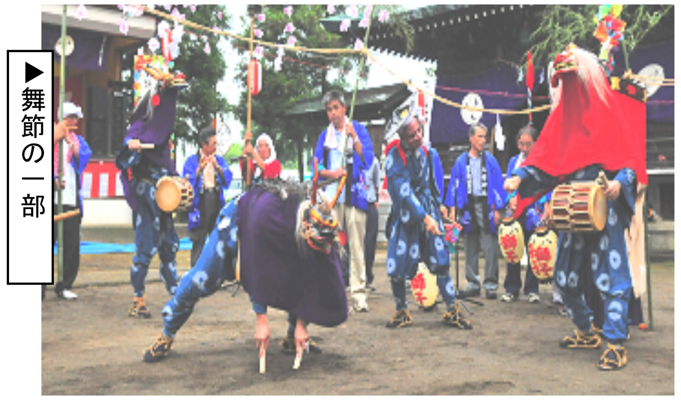
▲社務所から鳥居へ向かうところ

獅子舞者は水引を下げた姿で鳥居から土俵の入口まで笛にあわせて太鼓をつきながら進む。山の神はすべてを導くように舞いながら土俵へと向かう。

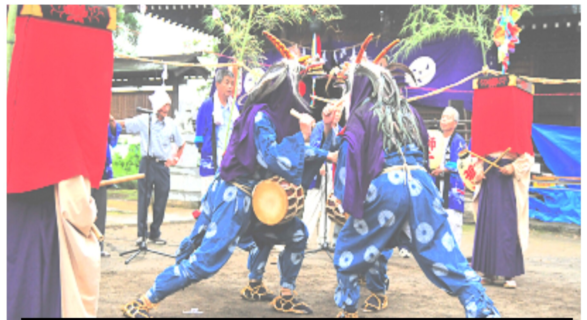


▲山の神とササラ子が土俵へ入ったところ

▶舞節の一部



山の神は獅子の入るのを促すように舞う。女獅子から土俵に飛び込み、手に持つバチを地につけ八の字を地面に描くように、地に悪魔悪霊がいないか見つける。中獅子、男獅子がつづいて飛び込み、女獅子とおなじ形になる。

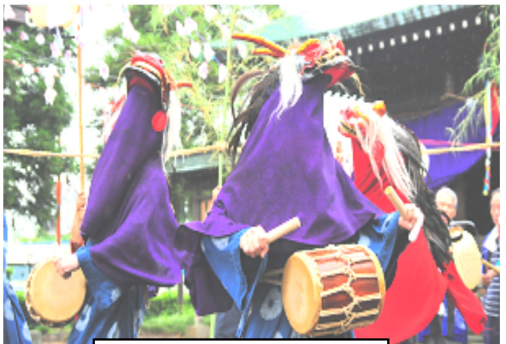


舞節を終えて立歌に入る前に中休みが入る。舞節とその後の立歌といずれも30分程度は舞い続ける。

獅子舞の内容

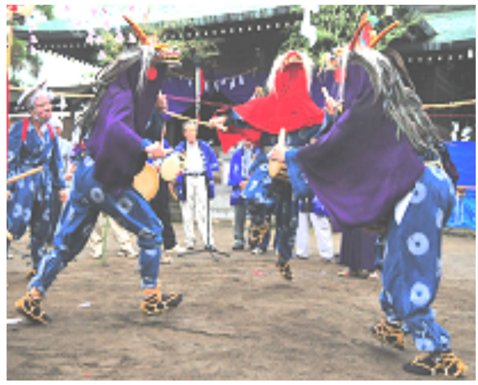
舞節は神事として、立歌は祭りの舞として奉納されている。

三体の獅子は親子。舞の内容としては、女獅子（母親）が隠されてしまい、父子が女獅子を探したずね、やがて、女獅子も見つかり、三獅子は仲良く舞うというものだが、獅子が土俵に入る舞には、天地に厄神がいないかどうか探して、獅子の力で追い払うという意味が込められている。また獅子そのものが神であり、雨を降らせ、五穀豊穣を祈り、厄病や災害を取り除く作法者の意味を持つといわれている。



▲立歌の舞の一部

獅子舞中一番の優美な姿といわれている。うちを向いて太鼓をついたり、外を向いてついたり、片足で飛びながらその場で一まわり回る姿もみられる。



取材をおえて

獅子舞は、歌や笛、踊りなど、どれをとっても覚えるには相当な練習が必要とのこと。南畑地域の歴史ある伝統芸能として、獅子舞が地域住民によって支えられて来たことに改めて感謝し、これからも存続していくことを願うばかりですが、後継者不足も深刻なようです。獅子舞に興味のある方、伝統文化を大切にしたい方は、お気軽に会長にお声掛けを。

取材協力
柳下光男氏

参考文献
『富士見のあゆみ』
『南畑八幡神社獅子舞』